

広域後代検定に係る共同利用種雄牛の能力評価結果について

- 1 家畜改良センターでは、広域後代検定に係る能力評価を毎年実施していますが、この度、新たに能力評価結果が判明した 32 頭のうち、6頭が新たに共同利用種雄牛として、農林水産省により選定されましたので、その評価結果を公表します。

所有県	名号	登録番号	父牛	母の父牛	枝肉重量(kg)		日齢枝重(kg/day)		遺伝子保有始祖個体
					育種価	正確度	育種価	正確度	
青森県	第1義花	黒15692	第1花園	安福久	14.142	0.91	0.021	0.91	第6藤良
山形県	丸藤3	黒原6391	福之姫	百合茂	68.625	0.88	0.078	0.88	茂金波、栄光
広島県	勝山桜	黒原6403	勝白福	美国桜	27.803	0.89	0.030	0.89	茂金波
長崎県	勝太郎3	黒原6376	勝乃幸	平茂晴	7.928	0.90	0.009	0.90	栄光
長崎県	姫晴久	黒原6470	福之姫	平茂晴	57.053	0.90	0.067	0.90	栄光、第6藤良
大分県	秋桜幸	黒原6353	平福安	隆之国	21.556	0.90	0.013	0.90	栄光

注1) 広域後代検定とは、農林水産省が推進している、各県において生産された黒毛和種のうち、優良種雄牛を広域的に利用するための検定であり、これまで 20 道県の参加を得て、平成 14 年度から令和7年度までに 1,064 頭の検定及び評価が終了しました。

- 2) 育種価とは、親から子へ伝えられる平均的な遺伝的能力の価値であり、親の育種価の 1/2 が後代に伝達されます。評価対象の集団が異なるため、各道県等で算出されている育種価と比較することはできません。
- 3) 正確度とは、予測された育種価が理論上の真の育種価をどの程度正確に反映しているかを表す値であり、両者間の相関係数と定義されています。値が 1 に近いほど正確であることを表し、成績が判明している近縁個体(子や兄弟等)の頭数が多くなるほど、正確度が 1 に近くなります。
- 4) 遺伝子保有始祖個体には、遺伝的多様性の確保の観点から重要と位置付けられる系統のうち、共同利用種雄牛が遺伝子を保有している確率の高い系統の始祖個体を表示しています。なお、共同利用種雄牛の選定方針で重要な系統と位置付けられる系統の始祖個体は、「茂金波」号(熊波系)、「栄光」号(栄光系)、「第6藤良」号(藤良系)、「第38の1岩田」号(38岩田系)、「城清」号及び「奥城土井」号(城崎系)です。
- 5) 遺伝子保有始祖個体は、特定系統の遺伝子保有確率が選定基準(「茂金波」号及び「栄光」号については 10%以上、「第6藤良」号、「第38の1岩田」号、「城清」号及び「奥城土井」号は5%以上)を満たすものを表示しております。

- 2 詳細につきましては、家畜改良センターのホームページの [トップ](#) > [家畜改良](#) > [遺伝的能力評価](#) (<https://www.nlbc.go.jp/kachikukairyo/iden/index.html>) に「新たに選定された共同利用種雄牛の評価結果」、「過去に選定された共同利用種雄牛」及び「評価方法の詳細」を掲載しておりますので、ご参照下さい。

お問い合わせ先

独立行政法人家畜改良センター改良部情報分析課
担当者: 細野、橋場

電話: 0248-25-4904 (情報分析課代表)

メール: kouiki-kentei@nlbc.go.jp

(※を@に変えて送信してください。)

『日本の畜産 改良と技術で育てます』